

## コーラルリーフプロジェクト in Fukuoka

日時：2009年11月14日（土）

場所：福岡市少年科学文化会館 3F

Institute for Figuring 所長のマーガレット・ワertimeさん（サイエンスライター・フリーランス学芸員）をお迎えし、福岡市少年科学文化会館で「編み物でサンゴを編んじゃおう！ 世界のサンゴ礁を守る Coral Reef プロジェクト！」を行いました。

参加者は、30名の親子のみなさん。編み物が好きな人も、編み物は全く初めてという人も一緒に参加し、世界20カ国以上で広がっている編み物サンゴ礁プロジェクトのお話を伺いました。1997年まで、Hyperbolic Space:双曲空間を再現できるモデルがなく、世界の数学者を悩ませていました。しかし、Daina Taimina 博士が編み物のかぎ針編みで双曲空間を再現し、数学界の大発見となりました。この無限に広がる特徴をもつ Hyperbolic Space:双曲空間を遺伝子に組み込んでいる生きものが、サンゴや海綿、そしてウミウシたちです。長距離を移動できにくいこれらの生物たちは効率的に捕食し、日光を受けられるように最大の面積をつくることのできる Hyperbolic Space:双曲空間を生まれながらに作り出しています。サンゴの果たす役割と、編み物で私たちが表現するサンゴ礁のアートとしての美しさを共有できたワークショップとなりました。



マーガレット・ワertime 所長 (Institute for Figuring)



手でぐるぐるできるウニもつくりました！



会場は、編み物サンゴをつくる情熱で盛り上がりました。



日本初の編み物サンゴのできあがり！

今はまだ小さなリーフですが、参加者の人数が増えれば増えるほど、サンゴ礁は大きくなっていきます。

国際環境セミナー「地球と海のお話を伝えよう！」

日時：2009年11月15日（日）

場所：九州大学大橋サテライト

今、日本をはじめ世界は今までにない社会の劇的な変化を経験しています。派遣制度、非正規職員制度が問題を投げかけている中で、既存にない仕事やサービスを立ち上げ、継続していくことがどんなに困難か、私たちNPOも痛感しているところです。同時に、こうした柔軟性のある仕事やサービスが、これからの社会に対して果たしていく役割の大切さも忘れてはならないことだと感じています。

将来を見失っている現代の子どもたちの話をよく聞きます。自らの仕事を開拓し社会に貢献している大人たちが、その姿を子どもたちに見せていくことができれば、自分で道を見つけていこうとする社会の入り口までは、彼らを導くことができるのではないのでしょうか。今日は、そうした目標となる、社会に新しい風を吹き込んでいる素敵な3人の方をゲストにお迎えすることができました。地球と海のお話を伝えるというテーマでお話をいただきました。

**松原雅裕さん（デジタルウムプロジェクト）・金田裕子さん（イリュージョンミル）**

東京タワーにほど近いストップおんだん館の常設展・巡回モジュールを開発。現在も運

営を継続されていらっしゃる松原さんと金田さんにお越しいただきました。

——「これから頑張っていかなければならないミュージアムは、地域密着型の小さなミュージアムである」—— 開口一番、松原さんの言葉です。

学びのプログラムを様々なメディアに落とし込み、学びを引き出す展示開発をしている先進的な取り組みについてのお話は、ひとつひとつの工夫がとても参考になりました。

また、「博物館教育プログラムの工房をつくる」というこれまでにない着想は、ミュージアムと人を結んでいく役割の大きさを痛感する同志としての思いを改めて強くしました。



松原雅裕さん（デジタルiumプロジェクト） 金田裕子さん（イリュージョンミル）

### 真下弥生さん

ハンディを持つ人たちも広く巻き込んでいく博物館教育・美術教育を展開している真下弥生さん。

今日は、美術を鑑賞するのに「正解はない」というお話をしてくださいました。モダンアートとクラシックアートの見方の違いなども、近くでみたり、離れてみたり、作品の世界を想像したり、背景の理解に努めたり、いろいろな距離感で美術と向き合うことの楽しさに気づかされました。

また、クック諸島の伝統的な草を編む文化と国際化・資本主義社会化が混ざり合っ紡ぎだされたかぎ針編みの作品や福岡の和田千秋さんの作品では、美術作品の美しさ・斬新さに加えて、表現の多様性にも圧倒されました。地球のことを伝えるという作業の中には、地球の自然や生物はもちろん、人間や文化のそれぞれのストーリーがあることを忘れてはならないと思いました。



真下弥生さん

### マーガレット・ワータイムさん(Institute for figuring 所長)

昨日の少年科学文化会館のお話に加えて、「ゴミのタワー」と呼ばれるプラスチックが太平洋と大西洋から流れつき、ハワイの沖合に水面下 30 メートルの高さにも積み重なっていることを紹介してくださいました。有害物質が海水中に溶け出し、海の生物の体内に蓄積する危険性も指摘されています。

マーガレットさんは、2年間自宅に出るプラスチックゴミをため続け、編み物サンゴに編みこんで、Toxic Coral Reef を制作し、より多くの人たちに環境問題に目を向けてもらえるよう活動を続けていらっしゃいます。確かに、私たちが日常で使用するプラスチックを一度、自宅にためてみると、どのくらいの量を使っているのか現実味をもってわかると思います。

「この編み物サンゴ展は、科学とは無縁と思われがちな一般の女性の手によって編まれ、大きなサンゴ礁に成長してきました。この Coral Reef Project の素晴らしいところは、誰もが参加でき、その一部になることができる」と強調してくださいましたマーガレットさん。

「これから、たくさんの男性にも参加していただきたいですね。福岡での Coral Reef Project では、すでに男性の参加者もいてくださって嬉しい」との、マーガレットさんからのコメントもありました。



マーガレット・ワertime所長 (IFF) 編み物サンゴをつくっています。



共催の NPO 法人子ども文化コミュニティ代表 高宮由美子氏

#### コーラルリーフプロジェクト in Okinawa

日時：2009年11月17日(火)

場所：沖縄県立博物館・美術館

福岡から沖縄へと会場を移し、文化の杜共同企業体との共催で、引き続きサンゴのワークショップをひらくことができました。沖縄でも、12名の参加者の方とマーガレットさんとで **Japanese Coral Reef** を増殖させることができました。男性の参加者もいらしてくださいました。

会場となった沖縄県立博物館・美術館では、2010年2月に造礁サンゴ展が予定されており、NPO法人ミュージアム研究会からは蚊帳サンゴの協力展示をさせていただく予定です。その蚊帳サンゴの中に「**Japanese Coral Reef**」を展示したいので、今回のワークショップで編み始めた毛糸を持って帰って、2月までにサンゴを完成させてきます」という参加者のみなさんからの嬉しい申し出がありました。期待しています。



男性の参加者も、サンゴ礁のウニや謎のオリジナルの生物をつくってくれました。



双曲空間の理論は、かぎ針編みでのみ再現可能です。日本の Coral Reef Project をスタートさせました！



沖縄でも、編み物サンゴの世界が広がりました！